

世の中に必要とされる企業であり続けるために、可能性に挑戦し続けます

代表取締役社長 若尾富士男



Q. 第2四半期（連結累計期間）の総括をお願いします。

A. 特定市場への依存リスクが顕在化し、厳しい事業環境でした。

世界経済を見ますと、景気は緩やかな回復基調が続きました。しかし当社が属する水晶業界においては、デジタルカメラやテレビ等民生機器向け市場の低迷、メーカー各社の競合激化による価格下落の影響から、厳しい事業運営を余儀なくされています。特に当社が主力と位置づけるスマートフォン市場は、先進国におけるハイエンドモデルの売れ行き不振、アジアなどの途上国地域での低価格モデルの大躍進により受注が減少しました。このような状況に対し、グループをあげて固定費の削減や原価低減等、継続してコストダウンに取り組んだものの、販売不振からの損失をカバーするには至りませんでした。

特定市場や特定顧客への販売依存度の高さが一般の受注減少の主たる要因であり、大きな反省材料として今後の営業力強化に努めてまいります。

以上の結果、連結の売上高は、21億60百万円（前年同期比30.3%減）になりました。営業損失は、コスト削減に徹底的に取り組んだものの販売価格の下落を補うことが難しく、4億16百万円（前年同期は9百万円の営業利益）、経常損失は4億13百万円（前年同期は93百万円の経常利益）と大幅な減益となりました。

Q. 通期の見通しについての考えをお聞かせください。

A. 上期を底に上昇へ転じ、黒字転換へと繋げていきたいと考えます。

水晶部品業界におけるシェア争いは、しばらく続くでしょう。2015年3月期の連結業績につきましては、売上高は前期比10億4百万円減の47億29百万円、営業損失3億50百万円（前期比29百万

円減）、経常損失3億88百万円（同2億10百万円減）、当期純損失3億75百万円（同1億38百万円減）を見込んでおり、通期での黒字化は見込めない状況にあります。

その中で当社は、中国を中心としたアジア圏の販路拡大に努め、特定の市場や顧客への依存度を引き下げることで、経営の安定化を図り、下期に来期の黒字転換に向けた足掛かりを築いてまいります。

Q. 今後開拓すべき市場について教えてください。

A. ウェアラブル市場の広がり大きなチャンスがあると考えます。

スマートフォン市場では、新興メーカーの台頭により、機能と価格バランスがとれた中級モデルや低価格モデルが牽引し、成長を持続して行くと見ていますので、そこへ新設計のコストパフォーマンス品や新しいタイプの製品を投入し、販路を広げて行きます。

一方で、今後はウェアラブル機器に対する需要が増し、ユーザー人口が飛躍的に増加するであろうと考えます。ある米国の市場調査会社は、ウェアラブル機器の出荷台数が、2013年の5,000万台から2019年には1億3,500万台にまで達する見込みとの予測を出しています。また先般発表のあったApple社のスマートウォッチが、今後ウェアラブル機器の健康・フィットネス機能の向上を促すことで事実上の業界標準となり、これに倣ったさまざまなタイプのスマートウォッチが数多く登場すると見込んでいます。

当社が誇る世界最小の水晶振動子TFX-04をはじめ高品質な水晶製品は、多くのウェアラブル機器メーカー様よりお声をかけていただいておりますので、ユーザーの皆様にご満足いただける価値を提供し、収益性の確保に努めていきたいと思っております。

Q. 最後に、株主の皆様にご挨拶をお願いします。

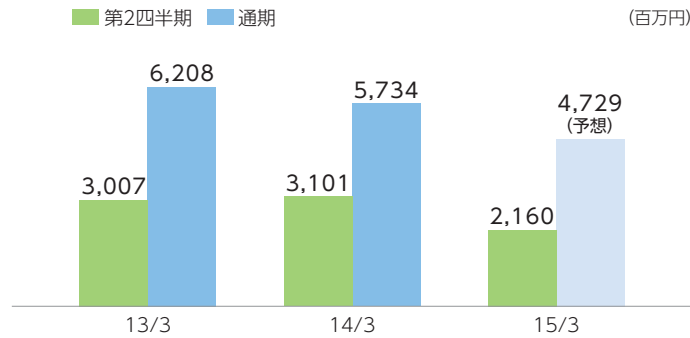
A. いちはやく悪い流れから脱却し、復配を含めた株主還元策を実施したいと思っております。

業界全体の傾向として、利益の出にくい体質になりつつあることに懸念を抱いておりますが、このような窮地をどう乗り切っていくか、当社がやるべきことはたくさんあります。当期はまず何よりも悪い流れから脱却することを第一に経営の舵を取ってまいります。

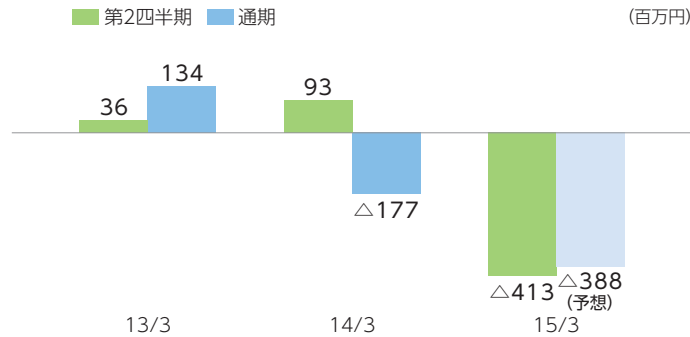
今後も事業環境は刻々と変化するものと予想されますが、当社は可能性に挑戦し続けます。次世代を見据えた高付加価値製品をお客様に提案し、新たな市場を創ること、独自技術で世の中に必要とされる企業であり続けることが、当社の使命であることと肝に銘じ、また株主の皆様にご利益還元してまいりたいと思っております。

今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

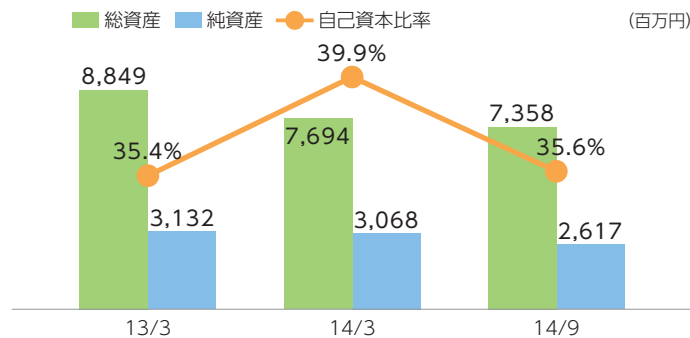
売上高 21億60百万円



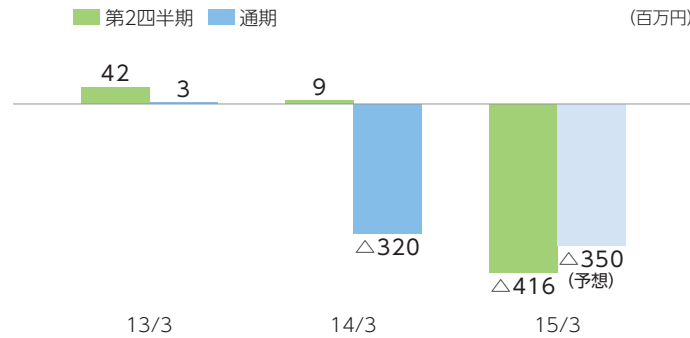
経常利益 △4億13百万円



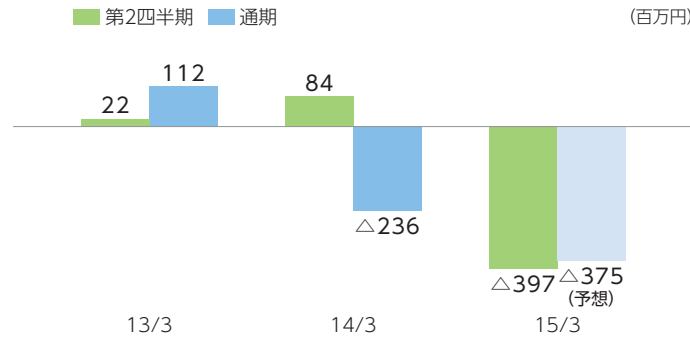
総資産・純資産・自己資本比率



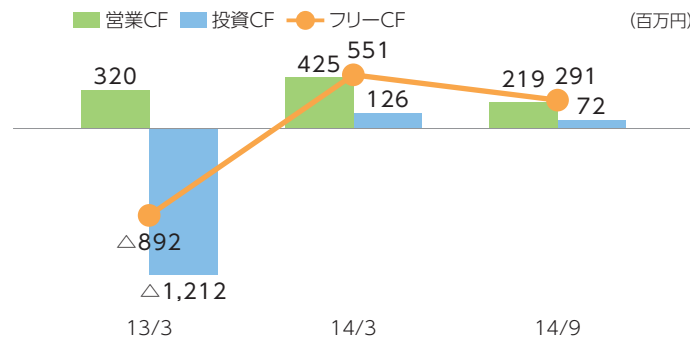
営業利益 △4億16百万円



四半期(当期)利益 △3億97百万円



キャッシュ・フロー

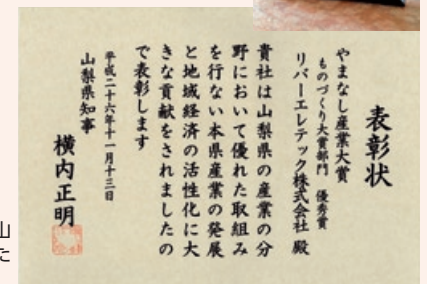


世界最小・最薄の 水晶振動子 (FCX-07L) が やまなし産業大賞・優秀賞を受賞。

産業の発展、地域経済の活性化に貢献する企業・技術を讃えるやまなしものづくり産業大賞・ものづくり大賞部門で、当社の「世界最小・最薄水晶振動子の開発」が優秀賞に輝きました。L1.6mm×W1.2mm×H0.33mm Maxの水晶振動子「FCX-07L」は、高精度な技術を用いた水晶片の加工、高いパッケージング技術、世界最小・最薄部品の商品化を実現していることが高く評価され、平成22年度ものづくり大賞受賞以来、2度目のやまなし産業大賞を受賞することができました。今後もこの技術を活かし、さらなる小型・薄型製品へ展開してまいります。



11/13に山梨テクノフェアで行われた表彰式で山梨県横内知事より表彰を受ける高保取締役。

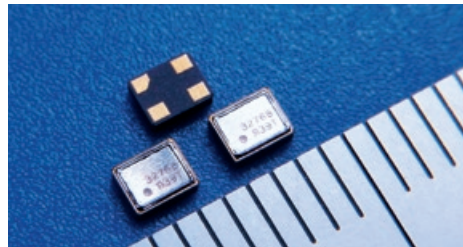


受賞記念のプレートと山梨特産品の和紙を用いた表彰状

位相雑音特性に優れた小型水晶発振器の量産を開始しました。

スマートフォンやタブレット端末などのモバイル機器に加え、身近なものになりつつあるウェアラブル機器は、小型で精度の高い水晶デバイスが欠かせません。また、近年注目を集めている音楽用CDを超える音質を楽しむためのハイレゾリフレッシュオーディオ (High-Resolution Audio) などの用途では、高品質で雑音の少ないクロック源が要求されています。

「FCXO-05E」及び「FCXO-06E」は、これらのニーズに応えるべく開発された位相雑音特性に優れた高精度水晶発振器です。当社独自の「電子ビーム封止工法」を用いた高精度パッケージを使用することで、高い基本性能と信頼性を確保しているほか、環境に配慮したRoHS指令対応製品です。



FCXO-05E

FCXO-06E

■製品特徴

1. 小型設計 FCXO-05E (2.5×2.0×0.8mm) FCXO-06E (2.0×1.6×0.7mm)
2. ATカット水晶片の使用により幅広い温度範囲に対応 (-40℃~+105℃)
3. 幅広い動作電源電圧 (1.60~5.5V) に対応
4. 高出力負荷 (50pF) に対応
5. CMOSレベルの矩形波出力
6. AEC-Q200準拠
7. セラミックパッケージと金属蓋で高信頼性確保
8. 無鉛はんだ用リフローソルダリングが可能
9. RoHS指令対応・完全鉛フリー

青森リバーテクノ(株)が日本最大級の異業種交流展示会に出展しました。



2014年11月5日～8日、国内外企業・団体

およそ1300社が集結する日本最大級の異業種交流の祭典「メッセナゴヤ2014」が開催されました。

水晶デバイスは電子機器に組み込まれているため、普段目に触れる機会がありません。このため当社製品を実際にご覧いただき、特徴やビジネスモデルの理解を深め、さらなる取引拡大が図れるよう、子会社である青森リバーテクノ(株)が東日本復興支援コーナーに出展いたしました。

幅広い分野・地域から業種や業態の枠を超えた多数の出展者、来場者に恵まれ、貴重な意見交換や親睦を深めることができ、盛況のうちに終了いたしました。今後もこのような催しを通じ、交流や情報発信ができればと考えております。



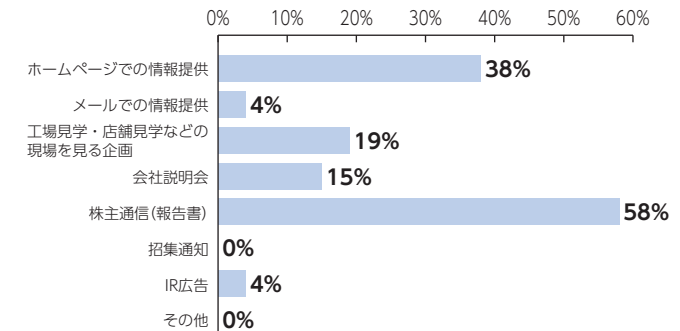
会場のポートメッセなごやで開催のテープカット



「がんばろう日本! 光る東日本の底力」と題する東日本復興支援コーナーに出展

第69期株主通信においてお願いいたしました株主様アンケートに、多くの株主の皆様からご回答を頂戴いたしました。心からお礼申し上げますとともに、お寄せいただきましたご回答をご紹介いたします。株主の皆様からいただきましたご回答の内容を真摯に受け止め、今後のリバーグループの経営及びIR活動に活かしてまいります。

充実を期待するIR活動についてお聞かせください。



株主の皆様のお声を聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへの協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6666

いいかぶ

検索

空メールによりURL自動返信

kabu@wjw.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com



Corporate Profile & Stock Information

会社概要・株式の状況

会社概要

(2014年9月30日現在)

商号	リバーエレテック株式会社 RIVER ELETEC CORPORATION		
設立	1951年3月9日		
資本金	10億7,052万円		
従業員数	98名		
役員	代表取締役社長	若尾 富士男	
	常務取締役	三枝 康孝	
	取締役	高保 譲治	
	取締役	萩原 義久	
	取締役	若尾 敦雄	
	常勤監査役	古屋 延行	
	社外監査役	越智 大藏	
	社外監査役	丸山 正和	

事業所	
本社	〒407-8502 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号
東京営業所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目40番14号
大阪営業所	〒570-0083 大阪府守口市京阪本通1丁目3番2号 新近藤ビル3F

リバーグループ (子会社の状況)

会社名	資本金	議決権比率(%)	事業内容
青森リバーテクノ株式会社	千円 50,000	100	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	千台湾元 19,200	100	電子部品の販売
River Electronics (Singapore) Pte. Ltd.	千米ドル 123	100	電子部品の販売
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.	千マレーシアリンギット 25,400	100	電子部品の製造
西安大河晶振科技有限公司	千元 33,045	100	電子部品の製造・販売

株式の状況

(2014年9月30日現在)

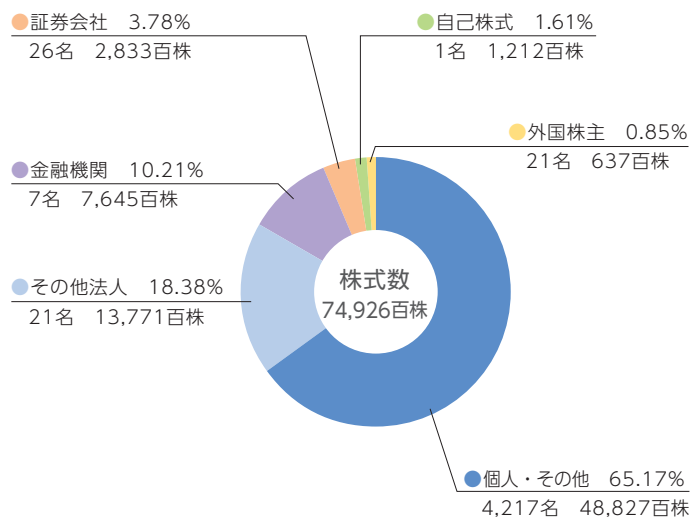
発行可能株式総数	21,600,000株
発行済株式の総数	7,492,652株 (自己株式121,222株を含む)
株主数	4,293名 (前期末比296名減)

大株主

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
若光株式会社	12,233	16.60
株式会社山梨中央銀行	2,680	3.64
若尾 富士男	2,027	2.75
若尾 磯男	1,651	2.24
株式会社みずほ銀行	1,500	2.03
日本証券金融株式会社	1,362	1.85
若尾 亘	1,282	1.74
リバー従業員持株会	1,272	1.73
株式会社商工組合中央金庫	1,200	1.63
若尾 政男	1,100	1.49

(注) 持株比率は、自己株式1,212百株を控除して計算しております。

所有者別株式数分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月開催	
基準日	定時株主総会	毎年3月31日
	期末配当	毎年3月31日
	中間配当	毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日	
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部	
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号	
電話お問い合わせ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-288-324 (フリーダイヤル)	
公告方法	当社ホームページに掲載する。(電子公告) <http://www.river-ele.co.jp/> ただし、事故その他の止むを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。	
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	

未払い配当金のお支払い、支払い明細等の発行に関するお問い合わせ

お手続きお問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 株式会社みずほ銀行 本店及び全国各支店

住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取り方法のご指定、相続に伴うお手続き等

証券会社でお取引をされている株主様

お手続きお問い合わせ先	お取引のある証券会社
-------------	------------

特別口座に記録されている株主様

特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
お手続きお問い合わせ先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)
特別口座での留意事項	①特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社にお取引の口座を開設し株式の振替手続を行う必要がございます。 ②株券電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。